

2022（令和4）年度
自己点検・評価書

2023年3月

佐賀大学

保健管理センター

2022(令和4)年度の保健管理センターの業務について総括し、活動報告および自己点検・評価を行う。

I 日常業務に関する状況と自己評価

保健管理センターは、佐賀大学の保健管理に関する専門的業務を行うことを目的として設置されている(佐賀大学保健管理センター規則第3条)。業務内容は下記の通りである。

- (1) 保健管理計画の企画・立案
- (2) 定期及び臨時の健康診断
- (3) 健康相談及び救急措置説明
- (4) 健康診断の事後措置, その他健康の保持増進に関する必要な指導
- (5) 学内の環境衛生及び感染症予防に関する指導・援助
- (6) 保健管理充実向上のための調査研究
- (7) その他保健管理に関し, 必要な専門的業務

最近では、従来の健康診断を中心とする業務に加え、新たな業務内容が増えてきている。2022年度は、前年度に続き、新型コロナウイルス感染症の広がりによって、感染症対策の業務にも多くの時間を割くこととなった。学生支援の面では、発達障害等の障害を持ち合理的配慮を必要とする学生が増加してきており、学生支援室と協力して支援に当たっている。また、教職員の支援に関しても産業医としてストレスチェックによる高ストレス者および要配慮者の面談や復職支援、就労支援等のサポートを行うケースが増えてきている。

学生の健康診断証明書発行業務については、令和4年度よりRPA(ロボティックプロセスオートメーション)対象業務としてDX推進室に業務の自動化・簡易化について依頼を行い、RPA化が実現している。また、学生・教職員の健康診断データについて、健康診断システムの導入を2023年3月に実施した(委託業者:佐賀電算センター)。現在、実働化に向けて調整中である。

学生の健康管理実施状況

本庄地区では、健康診断として、定期健康診断(新生入、在学学生、留学生)、スポーツ健康診断、RI・じん肺・特定化学物質健康診断、感染症対策として、新型コロナウイルス感染症等への対応、メンタルヘルスとして、通常カウンセリングおよびスクリーニング、その他として、禁煙サポート、肥満学生支援、保健指導・救護、健康診断証明書発行などの業務を行っている。

鍋島地区では、健康診断として、在学生、大学院生の定期健康診断、RI健康診断、感染症対策として、新型コロナウイルス感染症への対応、小児感染症対策(新入生)、B型肝炎ワクチン接種、インフルエンザワクチン接種、メンタルサポートとして、カウンセラー面談、スクリーニング面談、その他として保健指導・救護、健康診断証明書発行などの業務を行っている。

<本庄キャンパス>

1. 定期健康診断

(1) 学生健診実施状況

2020・2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、日程や対象者の変更が生じたが、2022年度は、従来通り4月の11日間の日程で、全学生を対象に健康診断を実施した。

(2) 学生健診受診者数

健診対象者は5,469名、受診者は3,303名で受診率は60.4%だった。学部毎の受診率は、教育学部88.1%、芸術地域デザイン学部52.8%、経済学部57.8%、理工学部53.8%、農学部73.7%で、学部による受診率の差を認めた。新入生全体の受診率は昨年より低下し、79.5%であった。その他の学年別の受診率は、2年生57.4%、3年生58.0%、4年生50.0%で、在学生の受診率の低さが目立った。大学院生の受診率は、63.2%だった。過去3年間のコロナ禍の健診で「全員が受診する」という原則が崩れていたため、全員受診について事前に周知を行ったが、健診受診率はコロナ禍以前の80%程度と比較し、かなり低い受診率となった。

2. 健康診断結果(各検査所見)

既往歴では、アレルギー疾患、外科・整形外科疾患、循環器疾患、消化器疾患などが多く見られた。やせ(BMI 18未満)は324名、肥満(BMI 30以上)は73名に見られた。胸部レントゲン検査は要精密となった者が5名であった。血圧は83名が有所見者(高血圧、低血圧)で、再検査、自宅血圧の測定などでも異常が見られる学生については専門医に紹介を行った。検尿異常(尿蛋白、潜血)は189名あり、再検査でも異常が続く者については、腎臓内科、泌尿器科等に紹介した。心電図検査は24名に実施、うち10名で比較的軽度の所見を認め経過観察を行っている。

3. 留学生健康診断

留学生健診は、2020年度からは健診項目を日本人学生と統一し、4月に実施している。受診率は前学期の健診対象学生153名中受診者61名(39.9%)、後学期の対象学生65名中受診者

58名(89.2%)、総計218名中119名(54.6%)だった。留学生数は前年度より増加し、後期の受診率は例年並みに回復した。胸部X線の有所見者はなかった。

4. メンタルヘルス対策

4-1 健康調査(メンタルスクリーニング)

心理面のスクリーニングを行うために、全学生(留学生を除く)へ「学生生活質問票」(CMHQ: College Mental Health Questionnaire を改編)を配布し、調査を実施した。総得点が30点以上(1~4点の4件法、12項目、総得点は12~48点)、「ふと自分がこの世にいなければと考えてしまう」という希死念慮の設問項目で3点(「かなりの間」)以上だった学生、メンタルクリニック等で治療中の学生、相談希望の学生を要面接者として呼び出しを行った。学内での相談利用があると回答した学生については、体調や相談の状況などの確認を行った。結果は以下の通りである。

新入生:要面接者は11名であった。全員の学生の中に、11名(100%)に面接を実施した。面接の結果、5名に所見があり、内訳は発達障害(疑い含む)4名、気分障害1名だった。

2年生:要面接者は6名であった。6名全員に面接を実施した。気分障害、神経症(不安状態など)などの状態が4名に認められた。

3年生:要面接者は16名であった。16名全員に面接を実施した。神経症、気分障害などの状態が10名に認められた。

4年生:要面接者は15名であった。14名に面接を実施した。気分障害、睡眠障害などの状態が14名に認められた。

大学院生:要面接者は7名であった。7名全員に面接を実施した。気分障害、神経症などの状態が5名に認められた。

全体として、54名に面接を行い(面接率98.2%)、とくに問題がないと判断された学生は23名(42.6%)だった。精神的な診断が可能とされた学生は31名(57.4%)で、気分障害(うつ状態、躁状態など)、神経症(不安状態など)、発達障害(疑い含む)が比較的多く見られた。すでに学内(保健管理センター、学生支援室、キャンパスソーシャルワーカー)、学外の医療機関のフォローにつながっている学生も多かったが、新たにカウンセリングにつながる学生も21名と多かった。

健診当日の面談実施や面談予約を行うことで、面接実施率は98.2%と良好だった。健診の受診率自体が減少したこともあり、要面接者は、昨年度に比べ大幅に減少した(149人→55人)。相談希望ありの学生は、11名だった。昨年度は神経症(不安状態)とスクリーニングされる学生が多

かったが、今年度は神経症よりも気分障害(うつ状態)と考えられる学生が多く見られた。希死念慮関連項目でスクリーニングされる学生は多いが、実際に自殺の危険があると判断された学生は2名で、すでに学内または学外でフォローされている学生だった。「死ぬというよりは消えたい」といった回答が多く見られた。背景には、自己肯定感の低さや自信のなさなどもうかがえた。

4-2 カウンセリング状況

本庄地区では、非常勤の学生カウンセラー3名(学生支援室と兼任)と医師、保健師が保健管理センターでカウンセリングを行っている。カウンセリングを受けた学生数は102名、延べ面談数は564回であった。外部医療機関(精神科等)へ紹介したケースが7件あった。相談内容の内訳は、精神衛生が78名と多く、次いで学業7名、家族4名、学生生活4名、身体健康、進路の順だった。

4-3 障害学生(留学生を除く)

本年度の保健管理センターが把握している障害学生数は202名(うち本庄157名)、何らかの修学支援を行っている学生は92名(本庄56名)、障害手帳等取得者は1名であった。前年度と比較して障害学生数は、7名増(本庄11名減)だった。病弱・虚弱、精神障害、発達障害、視覚・聴覚・言語の障害、肢体不自由などの障害を持つ学生が在籍しており、学生支援室集中支援部門と連携して支援ニーズの把握や修学支援、身体面のサポート等を行っている。

5. 感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策として、学生生活全般の感染症対策(授業における感染対策、部活・サークル活動に関する注意喚起、ホームページ・メール等での情報周知)を行った。また、「感染が疑わしい場合の状況別対応表」の作成・運用、新型コロナウイルスの検査受検者用報告フォーム「検査報告フォーム」の運用、「感染が疑わしい場合の報告フォーム」の教務課との共同運用、健康診断の実施方法の変更、入学試験に関する感染症対策等の対応を行った。

■主な感染症対策業務

①感染者、濃厚接触者の把握

「検査報告フォーム」および「感染が疑わしい場合の状況別対応表」を作成し、体調不良の場合、自身が濃厚接触者になった場合、家族が濃厚接触者となった場合等について、学生・教職員がスムーズに大学に報告ができるよう大学HPに掲載し案内した。Forms入力後の詳細

の聴き取りや濃厚接触者の把握、保健所との連絡については、保健管理センタースタッフがケース毎にきめ細かく対応を行った。

②関係部署(教務課、学生生活課、人事課、総務課、各学部等)との情報共有

把握した感染者に関する情報については、個人情報保護に留意しながら、関係者間で共有を行い、クラスター対策や緊急対策本部(執行部)への迅速な情報提供に努めた。

③保健所との連絡連携

おもに佐賀市を担当する佐賀中部保健福祉事務所と感染者の発生状況等について情報共有を行い、対応を行った。

④新型コロナワクチン職域接種

2021年度に続き、2022年度も本庄キャンパスにおいて計2,015名に職域接種を実施した。感染制御部をはじめとする医学部の皆様および事務職員の方々にご協力いただき、佐賀大学の学生・教職員、佐賀女子短期大学、関連企業の方などを対象に、2022年4月～2022年9月に、1回目・2回目の未接種者への追加接種、3回目接種で、1,571名にワクチン接種を実施した。2022年12月～2023年1月には、学生・教職員444名にオミクロン株対応ワクチン接種を実施した。大きなアクシデントもなく、無事に終了することができた。

■コロナ禍における通常業務について

① 授業における感染対策

座席の設定、換気、消毒、アクリル板の設置、送迎バスの使用方法等について、教務課・学部等と協議を行い、感染対策を実施した。

② 健康診断に関する変更や調整

今年度も引き続き完全予約制で混雑を回避し、感染症対策とともに利便性向上を図ることができた。

③ 部活・サークル活動についての注意喚起

いくつかのサークルで感染者が複数発生し活動停止するケースがあった。活動再開にあたって、活動指針、競技別ガイドライン、教育用動画の作成などを学生生活課と協力して行った。

④ 入試対応

コロナ禍における入試ということで、文部科学省から共通テスト等受験に関するガイドラインが示され、感染症対策の実施支援および体調不良者、濃厚接触者の受験生への各種対応

を行った。

6. 健康診断証明書発行状況

自動発行機による健康診断証明書発行状況は、929 通であった。保健管理センターにおける発行件数(自動発行で対応できないもの)は、73 通であった。発行数が多いのは、発行開始直後の 6 月、発行終了前の 3 月だった。発行の目的の多くは、就職用と結果通知用だった。

7. 保健管理センター利用状況(本庄地区)

保健管理センターの利用件数は 7,112 件(学生 4,725 件うち留学生 154 件・職員 2,387 件)であった。学生・教職員の体調不良時の診察や医療機関への紹介、外傷の応急処置、メンタルヘルスについての相談、健診の事後措置(血圧、検尿の再検査等)、保健指導など利用の内容は多岐に渡っている。今年度は、医師 2 名、保健師 2 名、看護師 1 名(看護師は新型コロナ対応臨時雇い職員、保健師 1 名育児休暇中)の体制で対応している。

<鍋島キャンパス>

1. 定期健康診断

医学部の定期健康診断は、医学部のカリキュラムや実習に合わせ計画し、医学科 5 年生は 1 月、医学科 6 年生は 3 月、それ以外の新入生・在学生・大学院生は 4 月に実施した。令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染はあったが、予定通りの日程で実施となった。

学部在学生の健康診断受診状況は 876 名中 863 名(98.5%)であった。大学院生は休学を除く 115 名を健康診断受診対象者とした。他機関受診を含め 68 名(57.1%)が健康診断を受診した。医学部の全体の受診率は 93.6%で例年と差はない状況であった。大学院生の健康診断の受診率が低い状況は続いている。

令和元年度からは、社会人大学院生に対しては、3 月の健康診断の案内だけでなく、夏期を利用し、他機関健康診断受診結果の提出を呼びかけている。また、附属病院職員かつ大学院生については、職員健康診断受診した場合は、佐賀大学の健康診断受診とみなしている。引き続き大学院生受診率を上げる対応は課題である。

2. 健康診断結果

新入生における現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、気管支喘息などの呼吸器疾患が 57 名、アレルギー性疾患 46 名、骨折などの既往が 20 名と多く認められた。新入生と大学院生に血液検査を実施しているが、肝機能異常や脂質異常症などの血液検査異常を認める学生は 12 名であった。女子学生の BMI18 未満のやせ傾向の学生は 46 名であった。

3. 感染症対策

3-1 小児感染症: 令和 4 年度から小児感染症のワクチン接種を過去 2 回接種するように案内を行った。接種に当たっては、かかりつけ病院との関係もあり、2 回接種を実施するためには、時間を要する学生もいた。臨床実習開始までに接種が終了できるよう、引き続き対応を行うこととした。また、新型コロナワクチン接種との関連で接種が完了できない学生もいるため、令和 5 年度も引き続きの確認事項としている。

3-2 B 型肝炎ワクチン: 医学部新入生で、入学時の血液検査で、HBs 抗原、HBs 抗体がともに陰性の学生に B 型肝炎ワクチン接種を行っている。令和 4 年度は、B 型肝炎のワクチン不足により、看護学科新入生は 6 月スタートし、医学科新入生は 10 月から B 型肝炎ワクチン接種を開始した。

医学科 1 年 102 名、看護学科 1 年 59 名、計 162 名が接種を受けた。B 型肝炎ワクチン接種は、3 回接種が必要となるが、看護学科 1 年は 2 月に確認検査を行った。医学科は、3 回目は令和 5 年度 5 月に実施し、血液検査による判定は 6 月に予定している。

医学科 4 年生については、入学時に B 型肝炎ワクチン接種を行い、実習前の確認検査として 4 月に定期健康診断の項目として、血液検査を行った。26 名が HBs 抗体陽性から陰性に変化していた。この対応として、2023 年 1 月 19 日に B 型肝炎ワクチンの追加ワクチン接種を、希望者 21 名に行った。

3-3 インフルエンザワクチン: 10 月に実施した。対象学年は、実習学生医学科 5 年・看護学科 3 年、および国家試験を受ける医学科 6 年・看護学科 4 年、1 月に臨床入門開始する医学科 4 年生、大学院生を含む 480 名にワクチン接種を行った。

3-4 新型コロナウイルス感染症: 2019 年 12 月に発生した新型コロナウイルス感染症対応については、本庄地区保健管理センターと医学部学生課と情報共有し対応を行った。

① 感染者、濃厚接触者の把握

「検査フォーム」「感染が疑わしい場合の状況別対応表」と保健管理センターへの直接連絡について、情報収集・関係機関との連絡対応を行った。

② 関係部署(感染制御部、学生課、各部局)との情報共有

病棟実習の学生については、感染制御部と協力し、対応を行った。また、学外実習の学生は、学生課教務および実習担当教員と協力し、病院検査の連絡調整・病院での検査補助・学生への検査結果連絡を行った。

③ 新型コロナワクチン接種

医学部学生も医療従事者としてワクチン接種対象者となるため、感染制御部・総務課・医事課・学生課と協力し、順次対象学年にワクチン接種を行った。

医学部のワクチン接種会場が、職員・学生ともに保健管理センターで実施された。ワクチン接種の準備・会場設営・接種後の清掃・救急時対応の準備などに例年以上の負担があった。市町村から接種券が郵送されていない場合は、保健管理センターで作成した接種券を使用した。市町村からの接種券が送られてきた分については、保健管理センターに提出し、記入が終わったら医事課に送るなどの、事務手続きまで対応を行った。

令和4年度4月以降の学生の新型コロナワクチン接種人数は、238人であった。

④ ワクチン接種状況管理・情報提供

医学部外の職域接種でワクチン接種を受ける学生もいるため、接種証明書を保健管理センターに提出させ、接種状況を把握するなど、学生の状況把握に努めた。

職域接種の案内、住居地外接種などの状況提供や、未接種者へ接種勧奨などを丁寧に行った。ワクチン接種を行わない学生には、接種しない理由を確認し、実習現場での感染対策の参考とした。

4. メンタルヘルス対策

4-1 健康調査(メンタルスクリーニング)

新入生: 入学時のオリエンテーション時に CMHQ:College Mental Health Questionnaire を配布・記入後回収し、翌日予定した健康診断時に面談の案内を行った。令和4年度は、対面で面談を行った。入学後すぐに面談を計画したため、面談率は94.1%であった。

在学生: H23年度から、看護学科3年を対象に全員スクリーニング面接を実施している。また、医学科2・4年は、WEB調査で対象となった学生のみ面談対象としていた。令和4年度は、感染対策に留意しながら、対面での面談を実施した。看護学科3年は、教員の呼びかけもあり、59名全

員が面談を受けた。医学科 2 年生については、10 月からの解剖実習開始のオリエンテーション時に WEB 調査の案内を行い、点数の高かった学生に面談を行った。104 名中 80 名(76.9%)が回答をし、21 名が面談の対象となり 15 人が面談を受けた。

4-2 カウンセリング状況

鍋島地区では、学生のカウンセリング体制としては、安田カウンセラー1 名が主にカウンセリングを行っている。学生の状況により、尾崎医師、医学部附属病院精神神経科学学校医 2 名による相談・診療体制をとっている。安田カウンセラーによる継続カウンセリングを受けている学生は、25 名であった。学校医診察については、学校医の協力により、附属病院受診の診察を保健管理センター分室内で行われるため、学生のメンタル状況および受診状況が把握しやすい支援体制になっている。

講義を繰り返し休む学生については、学生課やチューターからの情報提供があり、必要に応じて対応を行った。欠席を繰り返す学生には、精神科医、副センター長、カウンセラーと学生課、チューター、および保護者と連携し対応を行った。

カウンセリング・診察を受けた学生は 54 名、延べ面談回数は 113 回だった。相談内容は、精神衛生が 42 名、学業 4 名、学生生活が 4 名であった。

4-3 障害学生

保健管理センター分室として把握している障害学生数は 45 名。何らかの支援を行っている学生は 36 名。障害手帳等取得者は 0 名。病弱・虚弱、精神障害、発達障害などの障害を持つ学生が在籍。

5. 健康診断証明書発行状況

医学部の場合は、免疫の記録(小児感染症・B 型肝炎ワクチン接種)と国家試験免許申請に関する診断書発行のため 3 月の発行が多い。保健管理センターでの 3 月までの診断書発行は 308 件であった。

6. 保健管理センター利用状況

令和4年度の 3 月末までの保健管理センターの利用件数は 8,516 件(学生 3,901 件・職員 4,615 件)であった。鍋島地区は、医師 1 名、カウンセラー1 名、保健師 1 名、看護師 1 名の体制で対応している。

学生は新型コロナウイルス感染症の流行により、体調不良による利用者は減少した。一方で新型コロナウイルスワクチン3回・4回接種を実施したため、ワクチン接種に関連する利用者数が増加した。新型コロナウイルス感染症以前の利用者が、7,000人程度に対して、1,500人程度増加した。

メンタルヘルスの観点からは、例年は対面講義で学生の状況把握が行われていたが、オンライン講義で学生の状況把握が難しい傾向があった。令和4年度は、看護学科3年の実習開始時のメンタル不調者が多く、緊急対応が必要な事例もあった。

教職員の健康管理実施状況

<本庄地区>

1. 労働安全衛生活動状況

本庄地区では、安全衛生管理活動として、職場環境の整備（作業環境管理、職場の巡視、5S活動、快適職場づくり）、マニュアル等の整備（安全衛生管理マニュアルの作成、SDSの整備）、健康保持増進対策（健康診断、有所見者に対する事後措置、メンタルヘルス対策、受動喫煙防止対策）、安全衛生教育（安全衛生教育、能力向上教育、衛生管理者等資格者の確保）等の活動を環境安全衛生管理室と連携して行っている。

2. 健康診断

雇入時健康診断、一般定期健康診断、特定業務従事者健康診断、他機関受診（人間ドック等）を合わせると、962名が健康診断を受けていた。健診受診率は1名が未受診で、受診率は99.9%だった。定期健康診断の要精密者は347名（55.7%）であったが、その内、精密検査を受診した者は166名（47.8%）であった。精密受診率は十分ではなく、医療機関を受診していただくよう引き続き受診勧奨を行っていく必要がある。雇入時健康診断、胃検診、大腸がん検診の精密検査受診結果提出率は、それぞれ、43.9%、100%、100%だった。

3. 感染症対策

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症についての対策を下記の通り行った。

①感染者、濃厚接触者の把握

「検査報告フォーム」および「感染が疑わしい場合の状況別対応表」を作成し、体調不良の場合、自身が濃厚接触者になった場合、家族が濃厚接触者となった場合等について、学生・教

職員がスムーズに大学に報告ができるよう大学 HP に掲載し案内した。Forms 入力後の詳細の聴き取りは、保健管理センタースタッフがケース毎に対応を行った。

②関係部署(人事課、総務課、各学部等)との情報共有

把握した感染者に関する情報については、個人情報保護に留意しながら、関係者間で共有を行った。

③新型コロナワクチン職域接種

昨年度に続き、2022 年度も本庄キャンパスにおいて職域接種を実施した。感染制御部をはじめとする医学部の皆様および事務職員の方々にご協力いただき、佐賀大学の学生・教職員、佐賀女子短期大学、関連企業の方などを対象に、3 回目接種 1,525 名、1・2 回目追加 46 名、オミクロン株対応ワクチン 444 名のワクチン接種を行った。昨年度の職域接種から総計 8,882 名に接種を行った。

④インフルエンザ予防接種(職員)

コロナ対策、危機管理の観点から、本庄キャンパス職員の希望者へのインフルエンザ予防接種を 2020 年度より開始。2022 年度も予約システムを利用して 573 名の職員に接種を実施した。

4. メンタルヘルス対策

(1)健康調査(メンタルスクリーニング)状況

本庄地区では、全教職員を対象に 9 月に中央労働災害防止協会のヘルスアドバイスサービスを活用した「ストレスチェック」を行った。対象者 875 名中 759 名(回答率:86.7%)からの回答を得た。高ストレス者は 59 名(2021 年度 6.0%→2022 年度 7.8%)、要配慮者は 3 項目 9 名、2 項目 29 名だった。9 名に産業医・産業カウンセラーによる面接を実施し、4 名は継続カウンセリングとなった。

また、新規採用者・異動者等を対象にメンタル面のスクリーニングのための面談を行っている。新しい環境への適応に問題がないかを確認するため「疲労蓄積度チェックリスト」などを用いて心身の健康の確認を行っている。本年度は 109 名(100%)の面接を実施し、うち 3 名は継続カウンセリングとなった。

(2)カウンセリング実施状況

カウンセリング体制は、産業医 1 名、産業カウンセラー(非常勤)1 名、保健師 2 名である。相談の実数は 71 名、延べ数は 266 件であった。12 名を医療機関に紹介した。相談内容の内訳は、ほとんどが精神衛生(精神的不調に関わるもの)であった。

5. 復職支援実施状況

病気(メンタルヘルスの不調者を含む)やけがなどが原因で心身の健康を害し、休職している(休職しようとする者を含む)教職員に、段階(0~4 段階)ごとに産業医が中心となり復職支援を実施している。それぞれの段階とは、第 0 段階(発症時の支援)、第 1 段階(療養開始・療養中の支援)、第 2 段階(職場復帰準備期の支援 例:仮出勤)、第 3 段階(職場復帰時の支援)、第 4 段階(職場復帰後の支援 例:慣らし出勤)である。

本年度の復職支援対象者は、フィジカル 1 名、メンタル 10 名で、延べ面接回数は 68 回だった。とくに仮出勤中は体調の変動が起きやすいことから、今年度からは原則的に週 1 回産業医面談による体調確認を行うようにし、不調時には早めの対応(以降の仮出勤プログラムの修正等)が行えるようにした。6 名の職員に復職支援プログラムによる復職のサポートを行った。復職判定会議を 6 件実施し、メンタル疾患で休職していた職員 5 名、身体疾患で休職していた職員 1 名が復職した。復職後のサポートのための面談も適宜実施し、復職後の体調管理、職場への順応がスムーズに行われているかをフォローアップしている。

6. 労働災害報告

本年度の労災発生は計 10 件だった。発生状況、再発防止への取り組みについては毎月の本庄地区安全衛生委員会で環境安全衛生管理室より報告されている。

7. 長時間労働に対する産業医面談

月の勤務時間が標準時間から 80 時間を超えた者、もしくは 60 時間以上が 2 ヶ月続いた者に対して産業医面談を行い、健康状態の確認や管理監督者への勧告を行うこととしている。毎月人事課より長時間労働者についての報告を受け、産業医が確認を行っている。本年度は 33 名の面談を実施した。高ストレス面談時には、時間外労働の状況についても確認を行うようにしている。

<鍋島地区>

1. 労働安全衛生活動状況

鍋島地区では、鍋島地区安全衛生活動計画に基づき、鍋島事業場産業医 1 名、附属病院事業場産業医 2 名、総務課、専任衛生管理者、衛生管理者等と連携し活動を行っている。

2. 健康診断

職員健診は、医学部附属病院での定期健康診断の 100%受診を労基署より指導をされている。今年度の定期健康診断受診率も 100%であった。

雇入時健康診断については、佐賀中部保健福祉事務所の立入検査により、採用後概ね 1 か月以内に実施するよう指導があった。異動が多い附属病院職員においては対応が困難ではあるが、委託契約している近医での受診を案内し、おおむね 1 か月以内に計画・実施している。

有機溶剤健康診断及び特定化学物質健康診断、電離放射線健康診断も 100%受診となっている。

精密検査については例年並みの受診率となっている。引き続き文書やメール、電話等で精密検査の勧奨を行っていく必要がある。

今年度も希望者に各種がん検診を行った。乳がん検診 122 名、子宮がん検診 111 名、胃がん検診 74 名、大腸がん検診 120 名、前立腺がん検診 115 名に実施した。受検者が例年よりも減少しているため受検率を上げるためのアナウンス強化が必要だろう。がん検診の精密検査は、子宮がんの 1 名のみ未受診となっており他は 100%となっている。

6 年目となる歯科検診は 95 名の受検があった。

3. 健康づくり

「さが健康企業宣言」を宣言し、健康づくりに取り組み、昨年に引続き優良企業として認定された。認定書をいただき、ロゴマークは保健管理センター案内のチラシにも採用している。

4. 感染症対策

職員の感染症対策については、専任衛生管理者・附属病院感染制御部と協力し企画・実施した。

小児感染症 4 項目(ムンプス・麻疹・風疹・水痘)については、医療従事者の有資格職員については雇入時までに 4 種のワクチン各々 2 回接種をお願いしている。接種証明書や母子手帳写し等を提出していただき確認を行っている。資格を有しない非常勤職員に対しては、のべ 33 名にワクチン接種を行った。

B型肝炎対策として、健康診断時に209名の抗体検査を実施し、のべ117名にワクチン接種を行った。ワクチン接種後の免疫獲得率は90.9%となっている。

インフルエンザについては、全職員及び関係業者を対象に1,682名にワクチン接種を行った。

新型コロナウイルス感染症については、1回目のワクチン接種を2名、2回目を4名、3回目を34名、4回目を1,211名に接種した。以降のワクチン接種については各個人で接種するよう案内した。

感染対策として面談時のパーテーションの設置、健康診断受付前の手指消毒と発熱スクリーニング用サーモグラフィーの設置、マスク着用の徹底等を行った。喚起も適宜行い、密にならないようレイアウト変更も行った。

5. メンタルヘルス対策

新規採用者・異動者及び昇任者を対象とし、スクリーニング面接を177名に実施した。継続が5名だった。新人看護師は年2回の面接を実施している。

全職員を対象に、定期健康診断時に職業性ストレスチェックを行った。職員のメンタルヘルス対策として平成23年度から継続実施している。1661名(回答率97.0%)が回答した。要配慮者が445名(26.8%)、高ストレス者が173名(10.4%)だった。カウンセラーによる面接が64名実施され、そのうち1名が産業医面談となった。高ストレス者の面接指導はなかった。

大学職員の場合、異動は避けられないものであり、適応障害となる事例も認める。異動時の職務に関する教育・指導・配慮は職員の業務だけでなくメンタルヘルスにも影響するため、管理職の果たす役割は大きい。そのため安全管理担当・安全衛生スタッフと協力し、管理職研修を実施するなど、よりよい職場環境となるよう例年取り組んでいる。今年度は管理職研修会として「職場のハラスメントの理解と予防」及び「パワハラ防止法」の演題で、ハイブリットでの開催とした。計253名の参加があった。

個別カウンセリングは、上司からの勧めや指示、病休や異動といった現場の上司等と連携した事例が多くある。精神科の学校医の協力もあり病院紹介や産業医へつないだ職員が7名あった。

年に2回、カウンセラー連絡会を開催しておりカウンセラーと産業医や事務部門、看護部、過半数代表者といった関係者との情報交換及び共有や問題提起など、連携強化を図っている。

6. 過重労働対策

新型コロナウイルス感染症の対応もあり、医療従事者及び事務職員の長時間労働者が前年度よりも増えていた。月の勤務時間が標準時間から 80 時間を超えた者、もしくは 45 時間以上が 3 か月続いた者を対象に、8 名に産業医面談を実施した。

7. 復職支援対策

復職支援対策として、職員 22 名にのべ 111 回の産業医面談を行った。メンタルでの休職者のうち 5 名の職員が復職支援プログラム後に復職した。

8. 禁煙対策

鍋島地区は平成 19 年に病院敷地内禁煙、平成 25 年に医学部全面禁煙となり、隠れ喫煙はほぼ見られなくなり、喫煙率は着実に下がってきている。定期のパトロールは中止しており、喫煙や吸い殻等の通報もかなり減り、通報があった場合は巡視を行いポスター掲示等を行った。安全衛生委員会では報告を行い、また職員の喫煙率等についても喫煙対策委員長より報告した。

II 教育に関する状況と自己評価

保健管理センターの教員 3 名はそれぞれ大学及び大学院の講義を担当し、西九州大学、佐賀県医療センター好生館看護学院、県内の高校などでの講義・講演も依頼を受け行っている。准教授は大学院生の教育指導も行っている。また、学生や教職員向けの健康教育やミニレクチャーなども適宜実施している。以下に実績を示す。

<本庄キャンパス>

1. 講義

木道(学内):

健康科学 A・後期 全学部全学年対象 100 名

木道(学外):

呼吸・循環器系病態論 循環器内科 佐賀県医療センター好生館看護学院 看護科1年 40 名

①心不全 2022 年 10 月 3 日

②虚血性心疾患 2022 年 11 月 7 日

③不整脈 2022 年 11 月 28 日

2. 大学院生等指導

なし

<鍋島キャンパス>

1. 講義等

尾崎(学内):

実習の安全管理: 感染予防を中心に. 医学科 4 年 臨床入門. 2022.1.20.

健康科学の Topics. 大学院修士課程 医学・看護学概論(1). 2022.6.14

漢方入門: 東洋医学の基礎知識. 医学科 4 年 臨床入門 Unit10 2022.9.1.

漢方入門: 内科領域における漢方. 医学科 4 年 臨床入門 Unit10 2022.9.9.

薬っていったい何だろう? 薬の使用と歴史. 教養講座「くすりの話」. 2022.10.6.

生活習慣と健康. インターフェイス科目: 食と健康 III 運動と栄養. 2022.11.10

尾崎(学外):

病態治療学 II(消化器・泌尿器科)1. 肝臓・胆道・膵臓の機能と構造. 2022.9.29. 西九州大学看護学部

病態治療学 II(消化器・泌尿器科)2. 肝疾患の検査・診断と治療(ウイルス性肝炎・その他の肝炎)2022.9.29. 西九州大学看護学部

病態治療学 II(消化器・泌尿器科)3. 肝疾患の検査・診断と治療(画像診断・肝硬変・肝癌)2022.10.13. 西九州大学看護学部

病態治療学 II(消化器・泌尿器科)4. 胆嚢・胆道疾患の検査・診断と治療 2022.10.13. 西九州大学看護学部

病態治療学 II(消化器・泌尿器科)5. 膵疾患の検査・診断と治療 2022.10.27. 西九州大学看護学部

2. 大学院生等指導

医学部博士研究員 Dr. M. Manirujjaman

医学部大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 4 年(文部科学省国費留学生)Ms. Rasheda Perveen (2018.4~)

Ⅲ 研究に関する状況と自己評価

保健管理センターは学生・教職員の健康管理が主な業務であり、研究が活発に行われているとは言えないものの研究報告、学会発表等は着実にいき、毎年一定以上の成果を出している。九州地区大学保健管理研究集会(Web開催)、全国大学保健管理研究集会などの大学の保健管理に関する学会やそれぞれの専門領域の学会に積極的に参加し、研鑽に努めるようにしている。科研費への応募も継続して行っており、採択もされている。以下に研究報告、学会発表等の内容を提示する。

<本庄キャンパス>

研究報告

[学会発表]

- 1.木道圭子、荒木薫、田中千晴、小川康子、安田郁、古川早苗、武富弥栄子、尾崎岩太:オミクロン株(第6波)以降の新型コロナウイルス感染症の学内発生動向の検討 第52回九州地区大学保健管理研究協議会 2022年7月11~29日 Web開催(福岡大学)
- 2.荒木薫:女子中高生への理系進路支援 継続・育成型 STEAM ガールズ in SAGA 取り組み紹介 SICE2022 2022年9月8日 熊本城ホール

[論文]

- 1.木道圭子、荒木薫、田中千晴、小川康子、安田郁、古川早苗、武富弥栄子、尾崎岩太:オミクロン株(第6波)以降の新型コロナウイルス感染症の学内発生動向の検討 第52回九州地区大学保健管理研究協議会 2022年7月11~29日 Web開催(福岡大学)
- 2.荒木薫:女子中高生への理系進路支援 継続・育成型 STEAM ガールズ in SAGA 取り組み紹介 SICE2022 2022年9月8日 熊本城ホール

[論文査読]

CAMPUS HEALTH 60(2) 2023.5 発刊 全国大学保健管理協会 2023年1月

科学研究費補助金など

1. 荒木:JST 令和4・5年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム「継続・育成型 STEAM ガールズ in SAGA・SASEBO」(年間:300万円×2)
- 2.荒木:ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)(国立研究開発法人科学技術振興機構 4,990万円)

3.荒木:令和2~5年度「定期接種化前後でみたロタウイルスワクチンの有効性の変遷」(科学研究費助成事業) 若手 研究代表者

＜鍋島キャンパス＞

研究報告

[学会発表]

1. 尾崎岩太, 村川徹, 野口光代, 佐藤英俊, 栗山一道. 大学医学部職員の職業性ストレスに関連する気血水の病態. 第72回日本東洋医学会学術総会 2022.5.27-29(札幌市)Web開催.
2. 尾崎岩太, 矢野洋一, 有尾啓介, 大座紀子, 河口康典, 川添聖治, 井手康史, 柳田公彦, 佐藤正明, 川副広明, 安武努, 犬塚貞孝, 水田敏彦, 中山利浩, 磯田広史, 江口有一郎, 川口淳, 島正義, 高橋宏和, 平井賢治. 佐賀県における肝疾患対策の検証. 第58回日本肝臓学会総会 2022.6.2-3(横浜市)
3. 尾崎岩太, 安田郁, 古川早苗, 武富弥栄子, 嘉松美穂, 小川康子, 荒木薫, 木道圭子, 市場正良. 大学医学部職員の職業性ストレスに関連する漢方医学的病態. 第60回全国大学保健管理研究集会 2022.10.19-20(横浜市)
4. 尾崎岩太, 村川徹, 野口光代, 佐藤英俊, 栗山一道. 大学医学部職員の職業性ストレスに関連する気血水の病態:ストレスの種類による解析 第47回東洋医学会九州支部総会 2022.11.27(大分市)
5. 木道圭子, 荒木薫, 田中千晴, 小川康子, 安田郁, 古川早苗, 武富弥栄子, 尾崎岩太. オミクロン株(第6波)以降の新型コロナウイルス感染症の学内発生動向の検討. 第52回九州地区大学保健管理研究協議会 2022.7.11(福岡市 Web開催)

IV 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

保健管理センターでは、大学、自治体、地域の方々などから講演等を依頼されることも多くあり、時間の許す範囲で健康に関する講演を行うなど社会連携・貢献に努めている。県の審議会、委員会、関連学会等の委員となり活動に協力したほか、学会誌の査読員なども務めている。留学生の健康面の支援、留学する日本人学生の留学前後の健康面の支援なども佐賀大学の国際交流活動の一助になっていると考える。以下に2022年度に行った講演等について示す。

<本庄キャンパス>

〔講演〕

- 1.木道圭子:「健康管理について」令和4年度佐賀大学副課長級研修 2022年7月28日 附属図書館4階会議室
- 2.木道圭子:「教職員のメンタルヘルス」令和4年度九州地区国立学校会計事務研修 2022年9月7日 Web講演
- 3.荒木薫:「乳幼児のかかりやすい病気と感染症」みやき町社会福祉協議会ファミリーサポートセンター提供会員養成講座 2022年9月13日
- 4.荒木薫:リケフェス2022「今知りたい!理系進学で広がる未来」2022年11月13日 佐賀大学
- 5.荒木薫:「乳幼児のかかりやすい病気と感染症」多久市児童センターあじさい内ファミリーサポートセンター 2023年1月13日
- 6.荒木薫:「高大連携による理系女子育成」第12回大分県高大連携シンポジウム 2023年2月18日 大分大学
- 7.荒木薫:「講義・演習4 研修の振り返りとネットワーク作り」公益社団法人佐賀県社会福祉士会 令和4年度市町等人権相談窓口担当者研修会 2023年3月2日
- 8.荒木薫:「ARITAでリケフェス」2023年3月5日 有田町
- 9.荒木薫:「STEAMが拓くみんなの未来ー“正解“のない世界をワクワクにー」唐津 STEAM day!! 2023 基調講演 2023年3月12日 唐津市

〔自治体・学外の団体の委員会等〕

木道:全国大学保健管理協会評議員、全国大学保健管理協会九州地方部会幹事

荒木:佐賀県教育委員会委員、有田町 STEAM 教育推進協議会委員

<鍋島キャンパス>

〔講演〕

1. 尾崎岩太. 令和3年度佐賀県感疾患対策委員会報告. 佐賀県肝疾患対策委員会.
2022.3.23. 佐賀大学医学部(オンライン開催)
2. 尾崎岩太. 病院職員の健康管理:ストレスマネジメントを中心に. 令和4年度看護部リフレッシュ研修会 2022.6.10. 佐賀大学医学部臨床小講堂(佐賀市)

3. 尾崎岩太. 健康の保持増進:過重労働対策. 令和4年度産業医研修会 2022.7.30. 佐賀大学医学部看護学科講義棟(佐賀市)
4. 尾崎岩太. なぜ研修医に漢方薬の知識が必要か?考え方と知っておくべき副作用. 研修医漢方勉強会(1). 2022.9.28. 佐賀大学医学部臨床小講堂(佐賀市)
5. 尾崎岩太. 急性期に使える漢方. 研修医漢方勉強会(2). 2022.11.16. 佐賀大学医学部臨床小講堂(佐賀市)
6. 尾崎岩太. 補剤:超高齢化社会の漢方. 研修医漢方勉強会(3). 2023.1.17. 佐賀大学医学部臨床小講堂(佐賀市)
7. 尾崎岩太. ストレスチェック職場環境改善研修. 2022.11.24. 佐賀県警察本部(佐賀市)
8. 尾崎岩太. 健康診断とストレスチェックから見える佐賀大学医学部. 令和4年度健康診断事後措置講演会. 2022.12.1 佐賀大学医学部臨床大講堂(佐賀市)
9. 尾崎岩太. 佐賀県肝疾患対策の歩みと成果. 佐賀県南部医療圏肝炎治療研修会 2022.12.7. 武雄杵島地区医師会館(武雄市)

〔自治体の委員会等〕

佐賀県社会福祉審議会委員

V 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

保健管理センターの組織運営については、保健管理センター運営委員会で審議、報告を行い運営しており、2022年度についても新型コロナウイルス感染症による影響はあったものの通常の業務については、遅滞や問題、事故等もなく円滑に業務は遂行できたものとする。運営委員会では、健診を中心とする保健管理業務の企画立案、健康診断の結果の報告、健診データの解析結果の提示、健康調査の結果報告などを行っている。

佐賀大学の学内の各種委員会にも積極的に参加し、保健管理センターとして専門的見地から意見を述べ委員会運営に貢献している。また産業医として佐賀大学の労働安全衛生業務に従事している。災害や事故、感染症の発生などに備え危機管理マニュアルを策定している。

今年度も新型コロナウイルス感染症の流行は続き、日本国内にも多くの感染者が発生した。佐賀大学でも学生・教職員に感染者が発生し、健康状態の把握や情報共有など様々な対応が必要

な状況が続いた。医療者への新型コロナワクチン接種(鍋島)や職域接種(本庄)を感染制御部等と協力して実施した。新型コロナウイルス感染症については、大学の緊急対策本部会議にも参加し、他の部局と協力して対応に当たった。

各教員が担当している学内の委員会委員等を下記に示す。

委員等(木道):

保健管理センター運営委員会(委員長)、本庄地区安全衛生委員会(委員、産業医)、安全衛生管理委員会委員、本庄地区産業医、入学試験委員会委員、学生委員会委員、教育委員会(オブザーバー)、教育室会議委員、施設マネジメント委員会委員、病原体等安全管理委員会委員、放射性同位元素等安全管理委員会、本庄地区放射線障害予防委員会委員、新型インフルエンザ対策委員会委員、化学物質管理委員会委員、学生支援室・健康支援部門(部門長)、集中支援部門(協力教員)、ダイバーシティ推進室員

委員等(尾崎):

鍋島地区安全衛生委員会委員・医学部教育委員会(オブザーバー)・動物実験委員会・ハラスメント相談員・鍋島事業場産業医

委員等(荒木):

保健管理センター運営委員会委員、・アドミッションセンター広報・高大接続等専門委員会委員、ダイバーシティ推進室運営委員(副室長)、広報室員、ハラスメント相談員

VI 改善すべき点

今年度も、新型コロナウイルス感染症により、感染症対策に多くの時間を割くことになり、業務全体にも多大な影響が生じた。健康診断については、2020・2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、日程や対象者の変更が生じたが、2022年度は、従来通り4月の11日間の日程で、全学生を対象に健康診断を実施した。

健診受診率は、鍋島キャンパスは98.4%と例年通り高かったものの、本庄キャンパスでは受診率が昨年同様に低く、60.4%となった。学部毎の受診率は、教育学部88.1%、芸術地域デザイン学部52.8%、経済学部57.8%、理工学部53.8%、農学部73.7%で、学部による受診率の差が見られた。新入生全体の受診率は昨年度よりもさらに低下し、79.5%だった。その他の学年別の受診率は、2年生57.4%、3年生58.0%、4年生50.0%で、在学生の受診率の低さが目立った。大学院生の受診率は、63.2%だった。過去3年間のコロナ禍の健診で「全員が受診する」という原

則が崩れていたため、全員受診について周知を行ったが、健診受診率はコロナ禍以前の 80%程度と比較し、かなり低い受診率となった。とくに学部生の受診率の低下が顕著であり、他大学においても、医療系、教育学部など実習を伴う学部以外においては、同じように健診受診率の低下が見られるとのことだった。

健康診断は、健康状態の把握とともに疾病や障害等の修学支援のニーズの把握やメンタルヘルスクリーニングの役割も持っている。学生の心身の健康、修学の支援につながる直接の情報を得る場であることから、より多くの学生に定期健康診断を受診してもらうようにすることが重要であるとする。

健診の必要性、感染対策を行い予約システムで混雑なく安心して受診できること、健診の時期や場所、健康診断証明書を無料で発行できる、メンタルヘルスのスクリーニングも行っていることなどのメリットなどについてのわかりやすい周知、何らかのインセンティブ(生協の食事券など)の提示、予約外での受診を制限付きで受け入れるなどの方策について検討を行っている。